

～障害者理解促進研修・啓発事業～

「ひとりのハートが世界を変えられる」

加藤健一氏講演会を開催

<目次>	P1	加藤健一氏講演会を開催
	P3	部会活動報告
	P5	インフォメーション
	P6	リレートーク（かるむの里）

鶴岡市では、障害者差別解消法の趣旨を踏まえた条例策定に向け検討を進めています。

障害者理解を促進し、これから鶴岡市が目指す共生社会がどのようなものになればよいか市民の皆さんと一緒に考える機会として、9月7日（土）に出羽庄内国際村において講演会を開催しました。



講演会の様子

当日は、約150名の参加があり、ロビーでは、市内の8つの就労系事業所が出店した「きてみて市」、また会場の一角には、パラリンピックを来年に控え、人気上昇中のスポーツ「ボッチャ」の紹介コーナーも設置し、会場は、さながらお祭りのような雰囲気でした。

講師の加藤健一氏は、21歳の時に難病の筋ジストロフィーを発症し、現在はパラグライダーで空を飛ぶ車いすユーザーで、昨今メディアでも多く取り上げられていますが、「空飛ぶ車いす社長」（山形バリアフリー観光ツアーセンター代表理事）として県内外でご活躍されている若手実業家です。

講演では、ご自身の体験で松岡修造さんとの出会いも語られ、誰もが住みよいまち、外に出てみたくなるまちづくりを進めるための発信者として熱く語る加藤氏の姿に参加者は、終始聞き入っていました。

ねずがせきビーチで、車いすの利用者が水泳に挑戦した活動では、海岸に降りるための車いす用のスロープを住民が協力して手作りしたお話もありました。

加藤氏は就労継続支援事業所を経営し、ご自身も車好きで、「大きくなったら自動車屋

になりたかった」という思いから、「皆が仕事を選べる環境になってほしい」と車好きの利用者のために、自動車関連の作業を提供しているそうです。

また、駐車場が少ないために外出を我慢してしまう人が多い現状から、障害者等用駐車場を増やす「ブルーペイント大作戦」も展開し、県内外でこのイベントを実施中とのことです。

～いろいろなことに誰でもチャレンジできる社会をつくるためには、心の変化が大切、ハードは変えられなくてもハートは変えていくことができる～

皆に優しいまちづくりを、できることから実践し継続している加藤氏の行動力に、パワーをいただくことができた素晴らしい講演でした。

「何かお手伝いしましょうか」

共生社会の小さな一歩を皆でスタートしましょう。

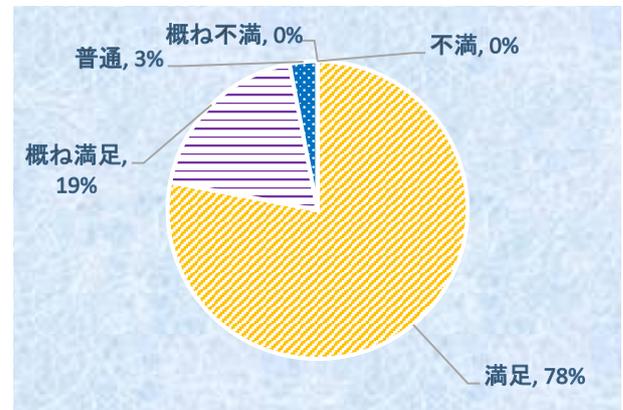
皆さんとともに知恵を出し合い、障害のある人もない人も暮らしやすい鶴岡らしいまちづくりを進めていきたいものです。



「ハードは変えられなくてもハートは変えていくことができる」

アンケート結果より

【本日の内容は満足いく内容でしたか？】



【参加者の声】 (一部抜粋)

- ・少しのアイデアでバリアフリーにつながることがわかりました。
- ・バリアフリーは環境でなく心だと思いました。
- ・諦めるのが当たり前となっていました、勇気をもって行動することで変わることができることがわかりました。
- ・「障害者だからできない」という固定概念が見事になりました。同じ人間、工夫次第で共生できる社会になることを知りました。



部会活動報告

令和元年度の活動経過・活動予定等

鶴岡市障害者地域自立支援協議会では、障害福祉分野の課題について、専門的に対策を協議するため、4つの専門部会を設置しています。

ここでは、各部会の活動の進捗状況や今後の活動予定等についてお知らせします。

相談支援部会

障害児者とその家族が安心して地域生活を送れるよう、日頃から個別の寄り添いはもとより、他の部会とも適宜連携しながら地域課題の解決にむけた検討、関係機関相互の相談支援ネットワーク構築・拡大を推進中です。

そのために、事例検討や制度勉強の機会を設け、相談支援専門員のスキルアップを図り、日頃より情報共有や同行訪問を行いながら本人・家族の想いに寄り添っていきます。さらには介護保険分野や精神保健分野に限らず、様々な領域・専門性の垣根を超えた連携により本人を取り巻く支援体制整備を目指した情報交換・研修の機会を設けていきます。

そして障害児者とその家族が安心して地域生活を送れるように「地域生活支援拠点」の整備に向けて関係機関との情報交換により地域の現状把握・課題抽出をしながら地域で支えるシステム作りを目指して活動しています。

～取り組み～

- ・相談スキルの向上
- ・他分野・他領域との連携
- ・地域生活支援拠点整備に向けた取組

こども部会

6月21日、第1回こども部会総会、放課後等デイサービス・児童発達支援事業所職員の情報交換会を開催しました。

総会には各事業所職員が参加し、自立支援協議会とこども部会の活動体制について説明を行いました。その後、昨年度の活動報告、今年度の活動計画について話し合いが行われました。

昨年度は「医療的ケアを必要とする児への適切な支援に向けた関係機関の協議の場を設置する」ため、研修会を開催しました。今年度は11月1日に、合同会社ヴォーチェ代表・佐藤奈々子氏による「つるおか医療的ケア児支援に関する研修会」を開催しました。

8/22(木)地域生活支援拠点整備に関する情報交換会



<制度説明・情報交換を受けて鶴岡での進め方を共有>



医療的ケア児支援に関する研修会の様子

また、昨年度同様、こども版障害福祉のしおり、放課後等デイサービスガイドブックの改訂を行いました。なお今年度からは、放課後等デイサービスガイドブックに児童発達支援事業所も掲載いたしましたので、ぜひご利用ください。

～今年度の活動内容～

- ・第1回こども部会総会、放課後等デイサービス・児童発達支援事業所職員情報交換会
- ・第2回こども部会「つるおか医療的ケア児支援に関する研修会」開催
- ・子ども版障害福祉のしおり、放課後等デイサービス・児童発達支援ガイドブックの改訂



情報交換会のグループワークでは活発な意見交換がされた

協力、発達障害に関わる人材の充実等を目的にインターネット等を活用した情報発信も行っていきます。

- ①切れ目のない相談支援体制の強化
 - ・「発達障害児者の相談を受けてくれるところ」の改訂・配布範囲の再検討
 - ・発達障害者の相談窓口の情報交換会
 - ・発達障害のある高校生の支援についての情報交換会
- ②地域の団体・企業等が主催する研修会・勉強会等への協力
- ③発達障害に関わる情報の発信



発達障害部会

発達障害部会では今年策定された第2次鶴岡市障害者保健福祉計画（つるおか障害福祉アクションプラン2019）に沿って活動方針を決定し、今年度は、発達障害に関わる悩みを抱えている方が切れ目のない相談支援を受けることができるよう、相談支援ネットワークの構築を図っていきます。また企業を含めた地域住民の発達障害への理解を促進するため、地域の団体・企業等が主催する研修会等への

しごと部会

しごと部会では、障害のある方の就労に関わる相談機関・事業所等と連携しながら、就労支援の現状や課題について共有し、就労系事業所間のネットワークの強化、工賃水準の向上、障害者雇用を促進するための制度周知等を図っていきます。

また、多様な働き方や相談先を知るための冊子「しごとガイドブック（仮称）」の作成についても検討し取り組んでいく予定です。

①就労系事業所との情報交換会の開催

就労系事業所の現場職員が、実践方法や悩み等を気軽に話し合えることを目的に情報交換会を開催し、ネットワークの強化を図っていきます。

②就労系事業所合同バザー「きてみて市」の開催

障害のある方の工賃や就労意欲の向上、広く障害に対する理解を図る目的で、平成29年度から合同バザーを開催しています。今年度は9月7日に出羽庄内国際村、10月12日に庄内観光物産館で開催しました。また、12月には鶴岡市役所ロビーで開催予定としています。

③しごとガイドブック（仮称）の作成

障害のある働く意欲のある方などが相談できる機関や利用できるサービスなどについて知ることができる「しごとガイドブック（仮称）」の作成について検討し取り組んでいきます。



出羽庄内国際村での「きてみて市」の様子



INFORMATION

就労系事業所バザー「きてみて市」を開催します

しごと部会では、障害のある方の工賃アップや就労意欲の向上、障害に対する理解を図ることを目的にバザーを開催します。市内の施設で作った製品や野菜、菓子など様々な商品を販売しておりますので、ぜひお越しください。

○開催期間 令和元年12月16日(月)

～12月20日(金) 11:00～15:00

○場所 鶴岡市役所1階ロビー

条例案について意見公募します (パブリックコメント)

市では、来年度施行予定の障害者差別解消の推進に関する条例(案)に係る意見公募を行います。

○募集期間 令和元年12月18日(水)

～令和2年1月10日(金)

○公表資料の閲覧 市のホームページのほか、市役所本所福祉課、各地域庁舎市民福祉課、障害者相談支援センターで閲覧できます。

○意見の提出方法

直接または郵送⇒ 市役所本所福祉課 まで

メール⇒ fukushi@city.tsuruoka.lg.jp へ

ほたるのホームページをご覧ください

地域医療連携室ほたるのホームページに発達障害に関する研修会・イベント等の情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

地域医療連携室ほたるHP

<http://tsuruoka-hotaru.net/>

<第11回>

“想い”をつなぐ!

日々の事業所展開で思うこと、部会・個別支援会議に参加して感じたこと、今後活かしていきたいことなどを寄せていただくコーナーです。

リレートーク

社会福祉法人 山形県社会福祉事業団
総合施設かるむの里

理事・所長 鈴木 一成



総合施設 かるむの里 (全景)

総合施設 かるむの里紹介 ~高齢・重度障がい者支援の拠点施設を目指して~

障害者支援施設「山形県鶴峰園 (S51年開所)」と「山形県慈丘園 (S48年開所)」は、施設の老朽化と福祉ニーズの変化に対応するため、総合施設「かるむの里」として鶴岡市柝屋地内に移転改築(合築)することになり、H30年10月に建物が完成、11月21日に開所式、そして12月1日から新施設での事業運営を開始しました。

「かるむ」とはフランス語で「穏やかな」という意味ですが、主に身体障がい者が利用する鶴峰園(入所40人)と主に知的障がい者が利用する慈丘園(入所60人)を1階と2階に配置する合築は、全国的にも珍しいケースであり、活動エリアと生活ゾーンを明確に分けるとともに、障がい特性やプライバシーにも配慮した全室個室対応可能な構造としています。また、対面式の機械浴槽や可動式の個浴槽、高さ調節機能付の洗面台など、最新の設備・機器を導入し、内装に県産木材(鶴岡:田川産の杉)を使用するなど、利用者の方が明るく穏やかに過ごせるよう環境を整えています。

事業内容としては、「庄内圏域における高齢・重度障がい者支援の拠点施設」を目指し、生活介護や自立訓練(生活訓練)、就労移行支援や就労継続支援B型事業などの日中活動を提供するとともに、短期入所事業所(重症心身障がい者を含む)や相談支援事業所、共同生活事業所を併設しています。

また、高齢化・重度化、自閉症や行動障がいなど多くの支援を要する利用者に適切に支援するため、介護福祉士等の資格を有する援助員を配置するとともに、医療的ケアの充実とリハビリ機能の強化に向け、看護師、理学療法士や作業療法士などの医療専門職を各施設に配置しています。

今後、専門職の活用による地域住民を対象とした「無料開放講座」の開催や福祉避難所としての役割を担い、地域社会への貢献を進めていきます。

◆総合施設かるむの里

住所: 山形県鶴岡市柝屋字天保恵10番地1
電話: 0235-35-1355 FAX: 0235-35-1356

- 障害者支援施設 山形県鶴峰園(短期入所も実施)
電話: 0235-35-1351/FAX: 0235-35-1352
- 障害者支援施設 山形県慈丘園(短期入所も実施)
電話: 0235-35-1755/FAX: 0235-35-1756
- 相談支援事業所 つるおか
電話: 0235-35-1212/FAX: 0235-35-1213
- 慈丘園共同生活事業所(グループホーム)
電話: 0235-35-0330/FAX: 0235-35-1356



鶴峰園(機能訓練室)



個浴室(可動式浴槽)



慈丘園(音楽療法)



鶴峰園(クリーニング班)

編集後記

今秋、「今ここに咲く!つるおかひょうげんの花」と題し、鶴岡では初めて障害のある人の表現活動を紹介する展示会が開催されました。多くの方からご来場いただき、作者の思いを感じていただいたことと思います。これからは誰もが個性の花を咲かせられるまちを目指していきましょう。